



## 海老原誠治 (えびはら せいじ)

いただきます.info事務局、三信化工株式会社、資源と環境と教育を考える会『エコが見える学校』、女子栄養大学短期大学部非常勤講師、元関東学院大学非常勤講師。和食器を用いた出前授業や、テレビ局の撮影クルーの経験を生かして動画作成の研修会の講師も務める。

# 選ぶ? 選ばされる? / Google Earth の活用

## ▶ 創造とは?

II

最近のICTには驚かされます。食育でも、誰もがお金をかけず簡単に、きれいなコンテンツが制作でき、見ていて楽しい動画も増えています。しかし手軽に制作できる一方で、工夫する余地は少なくなりました。アプリの機能を駆使して制作するのではなく、好きなイメージを選べば自動で編集してくれる便利なアプリを探します。最近はやりの生成AIでは、さらにいろいろなものを創造してくれます。

例えばChatGPTは、(執筆以外の!) 調査などでたまに使いますが、今回実験として、本稿を想定した条件をAIへ出しました。すると即座に回答が作成されます(表1)。率直に、そのまま使いたい文章です。しかし筆者の趣旨とはやや違います。この

とき私たちが『利便』を求めたらどうなるでしょう? 面倒に感じると、不本意な文章でもそれを選ぶことが増えるでしょう。例えば食事でも、面倒くさから妥協した物を食べるのに似ています。ICTが浸透することで生まれるこのような場面は、考えることや創造性にまで影響を及ぼします。どうやら、これからの人間が担うのは『望むものを選ぶ』のではなく『それらしいものを選ばされる』役割のように感じます。

最近のICT教育を見ると、「ICT機器やアプリのユーザーを増やしているだけ?」「面白いコンテンツの視聴者を増やしているだけ?」と、しばしば思います。子どもたちがICTに使われるだけでなく、道具として使い、ICTすら変えて子ども自身が創造し、表現できるための教育が気になるところです。

表1 ChatGPTを使った文章作成の例（上段の条件に対し、下段がAIが作成した文章）

AIへの条件	雑誌に載せるコラムの文章を提案してください。 ◎食育におけるICT機材の発達の弊害に関するテーマです。◎趣旨は、ICT機材の発達により、ICT機材の利用者の創造性が失われることに関する危惧です。◎対象は、小学校・中学校に勤める栄養士です。◎できるだけ、口語に近いわかりやすい表現の文章を提案してください。◎文字数の制限は、400字以内です。以上を満たす文書を提案してください。
AIの回答	ICT機材が発達し、食育でも便利なツールとして広く活用されています。動画や画像を使えば、子どもたちの興味を引きやすく、効率的に情報を伝えられるのは確かです。しかし、便利さの裏には危険もあります。ICTに頼りすぎると、子どもたちが自分で考えたり、想像する力が育ちにくくなる恐れがあります。食材に触れてみる、実際に調理してみるといった体験が不足すると、学びは表面的になります。私たち栄養士は、ICT機材の活用と実体験のバランスを意識し、子どもたちの創造力を引き出す工夫をしていきたいですね。



図1 Google Earthで、宇宙から目的地にクローズアップする動画の場面（PC版）



▲Google Earth  
を活用した、  
目的地へアプローチする  
動画を作成  
【PC画面収録編】

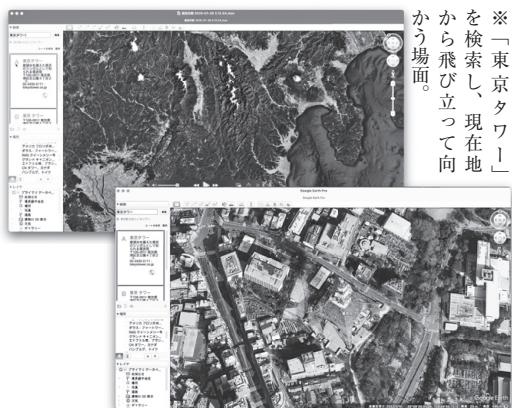
図2 Google Earthで、現在地などから目的地に  
クローズアップする動画の様子（PC版）

図3 スマホ版のGoogle Earth画面



◀ Google Earth を  
活用した、目的地  
へアプローチする  
動画を作成  
【スマホ画面収録編】

<https://youtu.be/S1oejQqqYHU>



◀ Google Earth を  
応用した動画の事例  
※【360° VR食育動  
画】の冒頭に使用し  
ている。

[https://youtu.be/jO2PjWjkRuw?si=YQ6G\\_XEPGOjxiUIM&t=15](https://youtu.be/jO2PjWjkRuw?si=YQ6G_XEPGOjxiUIM&t=15)

## ▶ 目的地へ迫る動画作成

無料で使える地図・地球儀アプリ「Google Earth」を紹介します。海底から宇宙まで、自由にズームしたり俯瞰することができます。目的地を検索（PCの場合には、左上の検索フィード、スマホの場合には画面上方向にある虫眼鏡マーク）するだけで、自動でアニメーション効果がついたアプローチを疑似体験することができます。

このアニメーションを、画面キャプチャーの要領で、PCやスマホに備わっている画面収録機能<sup>\*</sup>で録画すれば、簡単に目的地へ迫る動画を作ることができます（図1・3）。また現在地などから別の目的地を検索すると、空へと飛び立ち、そこへ向かっ

ているかのような動画になります（図2）。

現在、学校で主流の横長サイズ（16：9）の動画であれば、PCで画面収録する方が活用しやすいです。しかし、拡大や縮小など地図を手動で調節する場合には、スマホの方が使い勝手が良いと思います。PC・スマホいずれにしても、パワーポイントなどで動画を作成するときは、不要な部分がスライドの外側にはみ出るよう、収録動画を引き伸ばして配置して書き出します。

Googleのポリシーとして、非営利の場合、Google Earthを使った旨のクレジットを表示すれば自由に使えます。操作方法や動画作成については上記QRコードで詳しく説明しています。

ぜひ試していただければと思います。

\*画面収録は端末にもよりますが、Windowsでは「Windows + G」、Chromebookでは「Shift + Ctrl + ウィンドウ」、Macでは「Command + Shift + 5」で録画することができます。